

「はむらの学校教育」について

変化の激しい、先行き不透明な時代に求められる学校支援の一つに、揺るぎない、大きな方向性の明示があります。羽村市教育委員会では、「はむらの学校教育—全ての子どものよさと可能性を引き出し、伸ばす—」と題するグランドデザイン（全体構想）を策定し、ホームページに掲載中です。そのねらいは、各校が時代を超えて変わらない価値のあるもの（教育の不易）に改めて着目をし、それらを日々の教育活動の基盤に据えることにより、「全ての子どものよさと可能性を引き出し、伸ばす教育」の実現を図ることにあります。

以下、その主なキーワードを掲載します。

【言葉の力】

いかに時代が変わろうとも、言葉は文化の基盤を形成します。言葉がもつ「考える力」、「感じる力」、「想像する力」、「表す力」を学校づくりの中核に据え、学力向上、健全育成、家庭・地域との連携等を進めます。

【望ましい習慣】 習慣は「第二の天性」です。日常生活の大半は、習慣を基本に営まれています。社会の形成者として必要な主な習慣を、幼児期から中学校卒業までの発達段階に即して、学校と家庭がそれぞれの役割を果たしながら形成します。

【自尊感情】 自分は価値ある存在であることを認識する、いわゆる自尊感情は、私たちがよりよく生きるために欠かせません。日々の学校生活において、子どもたちが「やればできる」、「伸びている」、「役立っている」ことを実感する体験を積むことで、自尊感情を育みます。

【伝統・文化】 義務教育の各段階において、羽村や日本の伝統・文化について学ぶ機会の充実を図ります。その中で、郷土や国に対する理解や愛着を深めるとともに、世界の多様な伝統や文化を尊重する態度や資質を育みます。

【特別支援】 多様な人々が共に生きる社会の実現を目指し、子どもたちの自立と社会参加を推進するため、通常の学級、通級による指導、特別支援学級において、障害の状態や発達の段階に応じた指導や支援を行います。また、障害者理解や交流、共同学習を進め、多様性を尊重し、協働して生活する基盤を形成します。

こうした時代を超えて変わらない価値あるものを大切にしながら、【知・徳・体】のバランスのとれた人間としての力（生きる力）を育む。その中で、時代の変化とともに変えていく必要があるもの（流行）にも的確かつ迅速に対応していくことが、学校教育のさらなる充実につながると確信しています。

